

最終年にむけて

町おこしディレクターとして迎える最後の1年となりました。

3年間という期間はとても短く感じています。町内外の方からもたくさんの応援の言葉をもらえるようになり、「町おこしディレクター」という名前が認知・理解されてきた証拠だと感じています。

当初から計画実行しております「活動の継続性」。「まちづくり」・「まちおこし」をしていくときに、若い世代の発想・行動力やエネルギーが必須です。しかしながら、若い世代には、子育てや結婚といった現実的かつ絶対的な制約があります。

イベントを単発的に実施するのではなく、生活基盤と仕事をどのように町の課題と寄り添わせながら「コト」を創造できるのか。私は、「まちづくり」の課題を解決しながら、どのように経済的にも自立ができるのかを常に考えようになりました。ボランティア精神も大事ですが、活動でどのように資金を生んで、継続できるかを考えてやりたいです。来年度も地域にどのように関係性を持たせていただけるか、今年が本当に勝負になります。

ロケ地募集

ロケビジネスを開始し、嵐山町で50件以上のロケハンを制作会社と実施しております。嵐山町も狙ってロケ誘致ができるという証明です。

そこで町民の方で、「自宅を、敷地を、空き家を、廃工場を、ロケ地に使っても平気」という方がいらっしゃいましたら、ぜひ、教えてください。

これまでの神岡さんの活動により地域の個人や企業、団体が垣根を越えて結びつき、新しい地域活性化の芽が伸び始めています。まちおこしディレクターと一緒に活動をしていただける方の協力によって、小さな芽がやがて大きく育って深く根を張り、地域を支える大きな木になっていきます。色々な人同士がつながり、それぞれの視点とアイデアを持ち寄ることで、気づかなかつた地元の魅力や課題の発見につながります。活動に興味がある方のご連絡をお待ちしています。

問合せ 地域支援課 政策創生担当

☎ 62-2152

ロケビジネス

嵐山町を愛する人を増やす

町外に発信しても届かない。予算もないのに、お金をかけず、あわよくばお金を稼げてPRできる方法・・・、ロケビジネスに目をつけました。

官民の未利用時間・空間をロケ地に使用して、ドラマや映画に露出することは、話題性抜群であり情報発信となると考えています。

近くの市でもテレビドラマのロケにより新たな「まち」の流れを作っています。

ロケをするためには、行政、民間、そこに住む人々などの理解が必要です。

「映像」というゴールが、多様なつながりを育みます。

「まちづくり」・「まちおこし」も「まちへのアプローチ」だと考えます。

ロケ誘致をまち全体で一体的にできるようになれば、外部の人を受け入れる土壤・寛容さができると思っています。その土壤・寛容さを、これから嵐山町を背負う世代に、渡せるようにしたいです！



町内に住まう人が映画デビュー



町内でロケ

等身大ツーリズム

日常を観光として発信する

嵐山町には、等身大の素晴らしい魅力があります。住んでいる人が気づかないのは、なんでしょうか。

これからのツーリズムには、各々の日常の違いから感じる感動が重要なのだと思っています。

嵐山町の素晴らしい魅力は、次のようなものがあります。



都幾川での川遊び

目指すべきビジョンを実現するために

ステップ1からステップ4の人口を増やすため、活動しています。しかし、活動には資金が必要です。活動を継続的に続けるために、「ほどよく」稼いでいく必要があります。活動を続けるためのビジネスになり得る可能性のある活動について紹介します。



木材ビジネス

今住まう人の満足度を上げる

町の特徴である丘陵地は、現在、土地所有者の高齢化による管理不足などで、放棄された山林が多くなっています。そのような山林は、景観機能・公益的機能が低下してきています。丘陵地の山林は嵐山町らしさを産み出す景観であり、涵養としても重要な機能があります。

山林の管理作業を担う若手を集め、間伐や下草刈りを実施していく必要があります。管理作業を持続可能にするためにも利益を意識していく必要があります。間伐材は、床材や小物を製作し、利益創出を狙いながら町の景観を守ります。その第一歩として、昨年6月に将軍沢地区の町有林で「皮むき間伐」イベントを行いました。また、間伐材を使った商品をつくり、「嵐山渓谷紅葉まつり」で出店させていただきました！

地域の資源を活用し町での思い出を積み重ね、次世代に意識的に提供することも重要な「まちおこし」であると考えます。



間伐材を使った雪だるま



皮むき間伐イベント